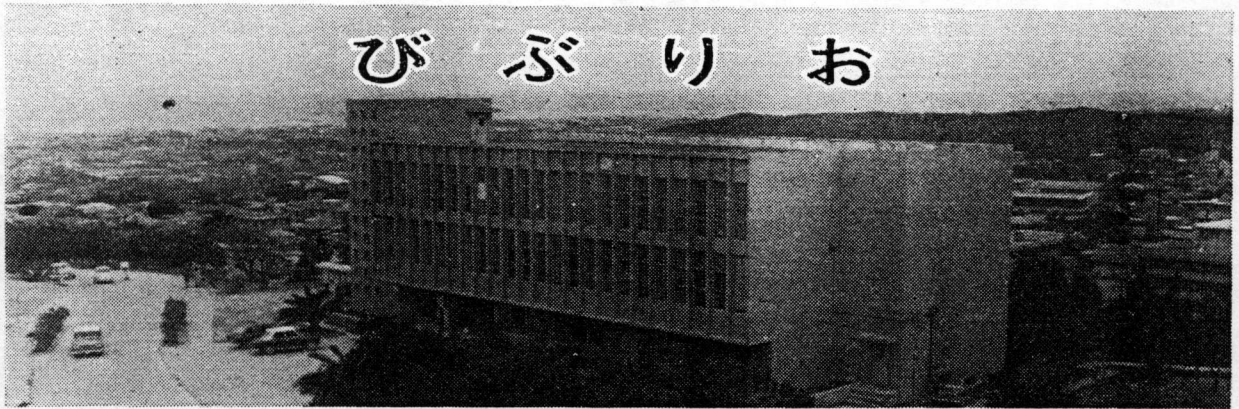


# びぶりお



VOL.1 NO.3

The University of the Ryukyus Library Bulletin

1968. 3. 1

## 研究活動と文献の重要性

宮 里 清 松

1900年に Correns, Tschermak, de Vries の 3 名の学者がお互に何の連絡もなしに単独で遺伝の法則を発見したことは、いわゆる Mendel の遺伝法則の再発見として広く知られており、科学発見の同時性の一つの例にあげられているが、これはまた、それよりも34年前にすでに Mendel によって同じ結果の論文が印刷公表されていたことを見落していた事実から研究活動を進める上での文献の収集、検索の重要性についての教訓ともなっている。更にそのことはわれわれの日常生活の面でも、問題のおこってきた背景や現状を十分に把あくしなければあやまった発言や行動となってあらわれるおそれのあることにも通ずるものである。

研究の主題を決定して実験計画を立てる以前に文献（情報）を収集して研究の位置づけを決定し、更に実験結果を整理して起稿にとりかかる前に文献を検索することが必要であり研究を続ける上での情報の収集と検索の重要性については十分に認識していても、実際にはなかなか思うようにいかないことが多い。

研究者の数や発表される論文の数が加速度的に増えてくると、情報組織の未整備などもあってすべての文献に目をとおすことは不可能である。戦禍によって古い貴重な資料が失なわれて、再び入手がたいものもあろう。

歴史の浅い本学では積み重ねてきた文献の数が少なく、情報収集の組織も十分に整備されていないという極めて不利な条件下にありながらも研究にたづさわる者としてはそれぞれの立場で可能な方法をとらざるを得ないが、一般的には個人購入の学術雑誌、図書館所蔵文献の利用、他の機関および個人所有資料の借用、複写、交換等によって検索し、また学会での発表、特に研究主題に関係あるシンポジウムでの討論、更に関連領域の研究者との意見交換によって情報を得るとというのが普通のやり方であろう。

ところで図書館は機能的には教育、研究調査の機関、情報入手のためのセンターであり、利用者に対しては一方的にサービスを行う機関であるとされている。本来の役割を果すためには組織の整備強化を図ることなども必要であるが、他面において、既存の文献の利用、あるいは情報の入手ということで参考業務を担当する司書の活用も忘れてはならない点ではなかろうか。

# 大学図書館の学習図書館的機能

閲覧係長 野原敏弘

大学図書館が、研究図書館的機能、学習図書館的機能、総合図書館的機能というものを、一般的にもつことはいうまでもないが、これは大学の規模と図書館の実績も相俟って、おのずからその機能も拡大され、タイプも形づくられていくものと思われる。

琉太図書館が学部学生のために果している学習図書館的機能というものは、ほぼ整備された形で、木目の細かい奉仕活動を行なっているといってもよいであろう。

昭和41年に出された、大学図書館施設研究会議答申では、学習図書館が、学部学生の学習と教養の場として、つぎの奉仕活動がなされるよう要望されている。

1. 適切な主題部門にもつぎ適当量の蔵書を備える。
2. 指定図書制度を採用する。
3. 原則として開架方式を採用する。
4. 参考図書を整備して、図書館資料の利用方法の指導、目録の検索指導、読書の案内指導、質問に対する回答などを行う。
5. 図書館の利用教育を行う。
6. タイプライター、複写機類の整備をする。

などである。

記憶はあまりはつきりしないが、どこかの大学図書館のパンフレットで、利用者を図書館へ引きつける要素として次の二点があげられていたと思う。

1. 豊かで適切な蔵書。
2. 図書館に対する利用者の心理的距離をできるだけ少なくしてやる。

(1) に関しては答申にも出ている通り、特に学習的機能をもつ図書館においては、学部学生の全カリキュラムに見合うような豊かな蔵書構成であり、学習の場として役立つものでなければならない、と同時に、教養の場として、教養図書、古典類、また教室での教授と直接結びついている指定図書制度、学生の学習、調査に必要な参考図書の整備、利用者を個人的に援助するレファレンス、サーヴィス等は、学習図書館的機能を果たす上に、欠かすことのできない要素である。

複写設備の利用も多くなっており、定期刊行物のような館外貸出を許可しない資料でも、必要な論文は複写によって利用することができ、利用効率を高めている。

開架方式もまた教育的効果をあげていると言える。

1967年4月の学生の入館数は、1日平均で1676人で、図書の貸出者は199人である。入館者数に対する貸出人員は12%に過ぎない。座席数は全部で476席であるが、いつでも殆ど満員の状態である。読書環境に最適な施設がないために多くの学生が、各自の図書を持込んで自習の場を図書館に求めてくることは無理もないことだが、図書館は図書館資料を利用する場所であり、図書館資料を利用する目的で入ってくる学生には、迷惑な現象ともいえる。しかし、これは図書館は利用し易いことの反映であるかも知れない。開架方式では、学生は直接書架へ行って、直接図書を手にとって選択できるし、図書館の資料を利用する目的を持たずに入ってきた学生も、自然に関心を持つように仕向けられることも考えられ、その教育的効果は大きいものがあると言ってよい。

大学図書館のもつ、学習図書館的機能というものが、大体において以上述べたようなものであり、学生がよくそれを理解し、具体的にそれを体験することは、生涯有益なことではないかと思う。

## 「出版ニュース」にみる

### 沖縄関係出版物の状況

1967年度の新刊分類旬報に掲載された沖縄に関する出版物は次の通りである。(分類順)

沖縄歴史物語	山里永吉著	勁草書房	..... (7月上旬号)
沖縄かくて潰滅す	神直道著	原書房	..... (11月下旬号)
沖縄	高田裕行著	実業之日本社	..... (12月上旬号)
沖縄一宮古島・石垣島一	日本交通公社編	日本公交通社	..... (12月上旬号)
沖縄問題と国民教育の創造	森田俊男著	明治図書出版kk	..... (8月下旬号)
沖縄返還運動	牧瀬恒二著	労働旬報社	..... (10月中旬号)
沖縄黒書	沖縄・小笠原返還同盟編	労働旬報社	..... (11月上旬号)
沖縄の民衆意識	大田昌秀著	弘文堂新社	..... (11月上旬号)
沖縄の子ら一作文は訴える一	日教組・沖教職共編	大日本図書KK	..... (1月中旬号)
南島方言与論語集	山田実著	武蔵野書院	..... (2月下旬号)
琉球先島方言の総合的研究	平山輝男著	明治書院	..... (5月中旬号)
カクテル・パーティー	大城立裕著	文芸春秋社	..... (10月中旬号)
沖縄かく戦えり	浦崎純著	徳間書店	..... (9月下旬号)

特に、書評にとりあげられたものに、森田俊男の「沖縄問題と国民教育の創造」(7月上旬号) 浦崎純の「沖縄かく戦えり」(8月下旬号)、吉村昭の「殉死」(11月下旬号)、加藤恭亮の「沖縄一その受難の歴史一」(12月中旬号)、石川文洋の「ベトナム最前戦一カメラ・ルポ戦争と兵士と民衆一」(12月下旬号)がある。

「図書及び図書館関係雑誌記事索引」のコラムでは、

大学生の読書材へのアプローチについて調査(石川清治)一読書科学 第10巻第1号-1967  
(3月下旬号)

読書の学年的発達と学部的特性の分析(石川清治)一読書科学 第10巻第2号- 1967  
(7月下旬号)

沖縄関係(政治・経済・教育)邦文文献目録 1~2-国立国会図書館月報第78.~79号- 1967  
(10月下旬号)

などが紹介されている。なお、7月上旬号では「類書あらかると」欄で、歴史、地理、紀行、風土記など30点、政治事情、教育、産業など29点、芸術が7点、語学方言、文学が9点、計75点にのぼる沖縄関係文献の紹介がとりあげられている。(参考司書 新城生)

## 図書館事情

### <図書館長就退任>

教授宮城健(物理学)は1967年9月30日をもって図書館長の任期を終え、代りに教授宮里清松(農学)が1967年10月1日付で図書館長に就任した。

### <職員の異動>

- ◎ 2級一般事務職(閲覧係)平良秀一は、1967年12月1日付で主税庁に出向した。
- ◎ 2級図書館管理職(参考司書)石川清治は1968年1月1日付で教育学部講師に転出した。
- ◎ 豊平朝美(2級一般事務職相当)は、1968年2月5日付で臨時的に任用された。

### <日本政府援助図書>

1968年度の日本政府援助図書費は20,000円であるが、1968年2月1日までに5,032冊を受入れ完全消化された。2月29日までに整理(分類・目録)完了の予定である。

### <和漢書増加目録>

和漢書増加目録第5冊1967年版を1968年4月30日に発行の予定である。

この目録に集録された図書は1964年7月1日から1967年6月30日まで受入れられた。12,302標目、15,300冊である。

### <職員の研修>

2級図書館管理職(参考司書)新井裕丈は、ハワイ東西文化センター図書館において、主として「大学図書館における参考業務」を6ヶ月間研修し、1967年10月13日に帰任した。